

芸豪烈伝その23

木村若友

「人に喜んでいただき、自分も喜びたい」

写真・森 幸一ほか 文・おさだ鬼吉



きむら わかとも 本名・大森政賢。明治44(1911)年4月1日生まれ、福島県安達郡うまれ。昭和12年28歳で上京、木村友衛の弟子となる。翌13年に若友の名をもらい、浅草金車亭で初舞台「柳生二蓋笠」を読んだ。昭和15年、福島県郡山市で看板披露。戦後、3年間師匠・友衛一座で全国をまわる。のち10年間、自ら一座を組んで全国を巡業。昭和33年、引退。昭和50年、現役復帰。

高齢化が進む、わが日本。百歳以上の方は7千人を越えるという。長寿はめでたい限りで、これに生き甲斐が伴えば最高の人生となる。今回、登場いただいた木村若友師は85歳でバリバリの現役だ。東京は上中里にある師の自宅を訪ねて、健康の秘訣をお聞きした。

秋風落莫(らくばく)。

ここ最近で東家菊燕や松葉薫など浪曲関係者が相次いで、あの世に旅立っている。70歳を過ぎていても、また死は避けえない運命とは知っていても悲しいものだ。

さて若友師は末広友成と並んで85歳。東京浪曲界の長老格で木馬亭の高座に毎月たっている大ベテランだ。

「長生きも芸のうち」というが、お元氣な秘訣はなんなのだろう。

「元氣というより、いたずらに歳を重ねてきてお恥ずかしい次第です。

いま85歳ですが、昔の浪花節あたりは、だいたい五十代で亡くなりましたね。感無量ですよ。私は子供の頃から病氣や怪我はほとんどしていないですよ。酒は飲まない。タバコは吸わない、まったくの味しらずです」

三道楽の打つは、
「競馬もパチンコも賭け事は、やりません」

女性のほうも、

「女性に言い寄られたことはあったが、合三味線の女房がやきもち焼きで貞女として、裏切れませんよ」

と、かたい一方だったようだ。

その合三味線の奥様の木村徳子(とくこ)さんは昭和62年に他界した。

「夫婦の情は濃かった。ケンカひとつしませんでしたよ。私の三味線で40年間、結婚生活は50年で金婚式を挙げて



から、この世を去りました」

結婚は若友師が郡山市で兄が経営していた菓子屋の手伝いをしていた21歳、徳子夫人は17歳だった。若友師25歳で一子誕生。28歳で青雲の志を抱いて上京する。

「浪花節が大好きだったんだね。御大（師匠の友衛）の『河内山』の豪快な調子に魅せられて弟子入りしました」
28歳とはずいぶん遅い弟子入りと思われるが、

「たくさんいた弟子の中でも、私が一番としかさでした。御大には特に目を掛けてもらいました。」

御大の家で住み込みで4年いました。冬でも足袋をはかず板の上の弟子が揃って、朝の7時から大きな声を出して稽古しましたよ」

苦労したのは発音。福島訛り（なまり）が抜けなくて難渋した。

「小遣いが、こつかい。水をみつ、と濁る所が濁らない。ヒとシが区別して昭和24年ころのポスター。「演題はお客さんを見て、たとえば女性が多いと、泣かせるネタだから『塩原多助』という具合でね」

いえない。住み込みの時にみっちり鍛えられましたよ。

「ただ私は声がよくったから、寄席に出て3日目で先輩を食い飛ばして、深いところで読んでいました」

若友師といえば美声。筒一杯の高い声に接した人は感嘆するはずだ。ハリと艶がある心の奥に響く大声（たいせい）だ。その声も以前は3分以上、息継ぎなしで語れたそう。

「いまでも声量は落ちたとはいえ三味線が切れることがあるんです。私の高い調子に合わせて糸が切れるんです」
声もいいが笛もうまい。太鼓が叩けて三味線も弾ける。

「戦後、御大の一座では、もちろん節も語りましたが、御大の三味線も勤めたんです」

（住み込み弟子の期間中、故郷の郡山に帰っては徳子夫人に三味線を教え、一人前にしたそう）

そして多彩なネタも魅力のひとつだ。「仙台の鬼夫婦」の一味かわったラストシーン自作だ。「慶安太平記」の、いろは四十七文字を逆さに読む老人が出てくる話や、「寛永三馬術」の曲垣と度々平の大井川の乗り切りや「三木豪右衛門 誉れの槍術」などの演者が掛けないネタを若友師はたくさん持っている。これらの面白いネタは若手が継承する必要があるだろう。

「現在は昔のような人情がないですね。」



平成6年(94)春に「若いもんなかに負けるもん会——83歳 末広友成と木村若友 二人会」の打ち上げで。百歳現役を誓う二人。(写真左が末広友成)

自分さえよければいいという利己主義が増えました。残念です。

私はこれまでお金は借りない、人をだまさない、嘘をつかないように生きてきました。ですから他人様に信用があるとしますよ」

若友師の話は徳の高い僧侶の法話のように聞こえる。

「敵を作りたいくないんです。どちらを向いてもいつもニコニコしていたい。私がかこまでやって来られたのも、世間の皆様、ファンの皆様のおかげです。私のモットーは自分も喜んで、人も喜んでいただきたいなんです」

若友師の長寿の秘密は若友師を支持し、若友師の背中を押してあげる世間の「気」ではないかと感じ入った。師匠、ますますお元気で。

浪曲... これほどすばらしい芸は他にはないと思えます。

23
52

浪曲家の皆さん... 頑張って下さい。
多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉